

審議会等の会議結果報告書

課所名

高齢者福祉課

会議名 令和6年度 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会

開催日時 令和7年3月10日(月) 13時30分 ～ 15時00分

開催場所 諏訪市総合福祉センター 3階交流ひろば

出席者 (出席者) (敬称略)
推進委員会
委員長 松本宙明
委員 正田行穂 藤森和良 矢崎敏江 飯田浩一 今村貴保 沖島太郎 神永記男
池上さゆり 清水俊英 宮坂正義
事務局 健康福祉部長 守屋和則
高齢者福祉課長 宮坂吉郎 介護保険係長 有賀恵
高齢者福祉係長 小口隆 同係主査 両角あずさ

資料 令和6年度 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会～次第～
諏訪市の高齢者を取り巻く現状(各種統計データ)【資料No.1】
諏訪市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画(令和6年度)事業推進状況

協議議題(内容)及び会議結果

1 開会(宮坂課長)

2 あいさつ(守屋部長)

医療介護・地域福祉の中核で活動・活躍される皆さまに、計画の進行管理、計画の推進に対してもご協力をお願いしたい。

本年は「いわゆる 2025 年」。本市の高齢者人口は 15,000 人前後で推移し、急激な人口減少により、高齢化率、要介護・要支援者の「認定率」や認知症の「出現率」の推計は増加する予想。独居、高齢者のみ世帯が増える時世、地域における医療と介護の「確保」、今まで以上に「持続可能」といった視点で、暮らしと福祉を考える必要がある。

医療・福祉分野で働く皆さまには、心身が健康であってこそ、よりよい活動やサービスにつながる。日頃の御礼にあわせ、皆さまのご健康を祈念したい。

3 協議事項

(1) 諏訪市の高齢者の現状について(事務局)

・資料No.1「諏訪市の高齢者を取り巻く現状」について説明

(2) 高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について(事務局)

・「諏訪市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画(令和6年度)事業推進状況」について説明

【意見交換】

○質問1(委員)

権利擁護の推進【成年後見制度の利用促進】「日常生活支援自立支援事業での日常に必要な手続き等の支援に限界があり、社会資源が不足している」この場合の不足している社会資源とは？

(事務局)

認知症高齢者、独居高齢者の増加により、成年後見を担う弁護士や行政書士等も人手不足となっている。

質問2(委員)

8050 問題とは？

(事務局)

親である高齢者が 80 歳代、その子どもが 50 歳代という家庭において、50 歳代の子どもが障がいやひきこもり等、親の支援で生活してきたが、親世代が要介護状態になると、子どもの支援も必要になる。現在は 9060 問題とも言われる。

(委員長)

50 歳代の子どもが 80 歳代の親の介護で離職せざるを得ない状況も 8050 問題。

質問3(委員)

認知症高齢者等個人賠償責任保険とは？

(事務局)

認知症見守りネットワーク加入者が加入できる保険。過去、認知症の方が徘徊し、電車を止めたことで鉄道会社から何千万円もの賠償金を請求されたことから考えられた保険。対象者は 65 歳以上だが、40 歳以上でも認知症との診断があれば対象とする。

(委員)

認知症の方の相談窓口が分からないとの話を聞く。専門的知識からの見解を求めたい場合の相談窓口は？

(事務局)

地域包括支援センター、在宅介護支援センター、社会福祉協議会、ライフドアすわ等。

(委員)

在宅介護支援センターでも認知症の相談は増え、民生委員と連携して対応。民生委員の成り手不足が深刻化している。

(委員)

自分の地区では民生委員の結束力が強い。

家族の介護をしており、自身も認知症サポーター養成講座を受講したが、認知症の症状はわからない。家族の病気(認知症)を地域の方に伝えているため、本人が外に出た時、地域の人々が見守ってくれる。介護する立場になり、大変さを痛感。

(委員長)

認知症の方は、見慣れた顔に安心される。病気を隠すのではなく、身近な地域住民に伝えることで、本人が安心できる人や場所で見守ってもらえる。諏訪市は見守りネットワ

	ークでバックアップしてくれる。何かおかしいと思ったらその人に声をかけることやネットワークの周知が大切。 (委員) 認知症サポーター養成講座受講者の活躍について知りたい。 (委員) ・認知症サポーター養成講座受講: 地域での見守り ・ステップアップ講座受講: 認知症サポーター養成講座受講者が更に認知症への理解を深める場。 ・オレンジサポーター: ステップアップ講座受講者で、具体的に支援(ボランティア)を希望する方。 オレンジサポーターの活躍として、認知症カフェでのボランティアの実施、介護施設でのボランティア活動の検討をした。 (委員) 認知症サポーター養成講座受講者を増やすことが認知症の理解につながる。地域で見守る目が増えることが大切。 介護なんでも相談員は施設に行き、利用者から不満や困りごとを伺う。利用者が感じているそうした不満等を高齢者福祉課、施設側へ伝える大切な仕事。 (委員) 施設職員の確保が難しく、外国人や人材紹介会社の力も借りている。職員の賃金アップを望みたいが、実際は厳しい。一般企業は賃金アップをしているため、より介護職離れが深刻化する。対策として、円滑な人間関係構築の工夫をしている。 介護老人保健施設はリハビリを提供し、在宅復帰を目指す施設であり、結果として要介護度を下げている。 (委員長) 少子高齢化、多死社会の中、在宅診療が減っていると感じている。在宅生活を支えるマンパワーがいない。施設でお亡くなりになる方が増えているように思う。 (委員) 在宅 CM として、10 年前に比べて介護施設に入所しやすくなったと感じている。グループホームが増えたり、施設紹介会社の力もある。 (委員長) 在宅独居生活で医療にも介護にも繋がっていない人の把握が課題。諏訪市は多職種が勉強する場、顔の見える関係構築の場として研修会や地域ケア会議を積極的に開催している。 (委員) 事業所の支援を提供する(利用者確保)上で、多職種との横の繋がりは大切。他の事業所と繋がれる研修会や地域ケア会議に今後も積極的に参加したい。 (委員) フレイル教室の男性参加者、新規参加者を増やすため、今後も地道な周知が必要。
--	---

(委員)

「チョイそこりんちゃん」は高齢者から満足の声を聴いている。今後、利用者が増加すると、現状と同様に使えないのではないかという不安がある。

(委員)

人口減少が進行すると、医療、介護の効率化として都市部集中となる。長野県らしさは中山間地で生活することで、どのような場所でも都市部と同じように医療が受けられることが理想。住民が諏訪で生活して良かったと思ってもらえるよう、2040 年に向け、明るい未来をみんなで考えたい。

(委員長)

今回の委員会では、昨年度策定の高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況を確認。生活支援体制整備事業の協議体で定期的に話し合いが開催されていること、認知症カフェが定着していること、見守りネットワーク、虐待防止ネットワークが開催されていること、「チョイそこりんちゃん」も形になっていること等、日々高齢者施策も変化し、進化が認められる。今後も全ての施策が住民のより良い生活につながってほしい。

4 その他

5 閉会（宮坂課長）